

二〇二三年八月一日(参加者二名)

古竈棚に大きな渋団扇	たか子
盛夏でもダッシュ百段部活生	かかし
状差しの上段団扇の定位置に	素秀
透きし絵は五重の塔や奈良団扇	こすもす
焼鳥の煤汚れせし渋団扇	はく子
太陽の塔は真夏の雲背負ふ	よう子
寿司のシャリ煽ぐ年期の古団扇	もとこ
幼な日の寝しなの祖母の団扇風	ぼんこ
広島を思ふ真夏の空ま青	わかば
鉄骨のビル組み上がる盛夏かな	豊実
ジーンズのからりと乾く盛夏かな	明日香
裾たくり帯に団扇や辻回し	ふさこ
入院のベッドに孫の手と団扇	うつぎ
団扇の手止まると見れば軒かな	うつぎ
夏旺ん大泣きの子を持て余す	満天

源氏名の団扇を壁に京割烹
もとこ

夏盛ん掘り起こされし不発弾
うつぎ

ネックレス肌に張りつく盛夏かな
なつき

北斎の怒濤の団扇よりの風
あひる

WEB句会みのる選・二〇二三年八月一日